

**3月議会
一般質問**

食育・食農 地産地消の 自校方式の給食実施を

教育委員会、不十分な検討でセンター方式に固執

三月定例市議会の一般質問が十四日、行なわれました。日本共産党議員団の主な質問や要求をお知らせします。

本議会に、2カ年計画で24億1658万円をかけて、7000食対応の大型給食センターを建設する予算が提案されています。

野並享子市議は、これまでも食育・食農の観点や、地産地消や避難所の炊き出しのためにも自校方式の給食を求めてきました。

14日の一般質問で「茨城県古河市において、給食センターから自校方式の給食に切り替え、十校の給食調理室の建設等に、9億4000万円であり、一校当たり1億円である。野洲市の保育園・幼稚園・小中学校すべてを自校・自園調理にしても15億円ぐらいのお金でできる。また古河市では給食調理室でご飯を炊き、保護者も交えておにぎ



りを作り防災訓練を行なっている。食器は強化磁器を採用している。これらのことを検証した上でセンター給食を選択されたのか。また中主町で行なわれていたバイキング給食などができなくなるのではないかと質問しました。

当局は一県内の小学校の、自校方式による給食調理室の建築で、350食能力で、1億5000万円かかっており、野洲市はこれより規模が大きく多額の費用がいり。どの学校も敷地内に建設できるスペースがない。センター建設後の維持管理費も安くつく。災害時のためにということ、自校方式は考えてない」と自校方式否定の答弁でした。

しかしながら、これまでから、提案してきた事柄で前向きな答弁もありました。「食器は現場の意見も聞きながら検討する。地産地消は検討している。米は野洲の有機米を使用。中主のバイキングなどは全校に広げる。防災訓練は、見直していく」と答えました。

平成18年度に水道料金が統一されますが…。

市民の暮らし優先で、大幅な値上げをやめよ

水道料金は、合併の調整協議で、平成十八年度から料金が統一されます。

平成十四年度の旧二町の供給単価を比較すると、旧野洲町の方が約二〇円（ト当り）高くなっています。合併協議会のシミュレーションでも、このままで平成十八年度に料金を統一すると133円41銭（ト当り）になるとしています。

その結果、旧中主町は16円5銭もの大幅な値上げとなります。これに対して、行政当局は、「これはシミュレーションであり、今後、経営努力を図る」と答弁していました。

これまで旧中主町では、比江・井口水源池の自己水が中心です。単価の高い南部用水（県水）からの受水比率は給水総量の13.7%でした。一方、旧野洲町では、58%。そのため必然的に旧野洲町の供給単価や資本費が高くなります。

小菅市議は、「このまま料金が統一されると、旧中主町の水道料金は大変高くなる。引き続き、自己水を中心とした水道事業の継続すること。また、南部用水の単価引き下げを県に求めるなど、経営努力で旧中主町の値上げを避けるべき」と要求しました。

答弁で当局は、「システムの一元化で効率的な運営に努めている。今後、統一料金については、施設整備計画を確定し、経費の更なる抑制などで、極力料金の低減をめざす。南部用水へも、引き下げを求めている」と答弁しました。

■合併協議会のシミュレーション

	H14年度	H18年度	増減額	増減率 (%)
中主町	117,36	133,41	16,05	13,68
野洲町	137,29		-3,88	-2,83
合 算	132,39		1,02	0,77

(供給単価 単位=円)

■給水量に占める県水の比率

(平成16年度)

	給水量 (ト)	県水量 (ト)	率 (%)	営業費用 (万円)	受水費 (万円)	率 (%)
中主町	884,285	121,076	13,69	7,491	1,205	16,1
野洲町	2,923,873	1,700,018	58,14	27,640	13,489	48,8

やす民報

発行 日本共産党野洲市委員会
2005年3月20日 No.23

市政へのご意見・ご要望、暮らしの相談をお気軽にお寄せください

小菅六雄 (住所) 比江668-3 (TEL) 589-4971 (FAX) 589-6184
野並享子 (住所) 北野1丁目7-10 (TEL) 587-0985 (FAX) 586-1102